

## 会議録

- (1) 会議名  
令和3年度第1回北杜市八ヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会
- (2) 開催日時  
令和3年10月15日(金) 午前10時～正午
- (3) 開催場所  
北杜市役所本庁 北館大会議室
- (4) 出席者
- 委員
- |          |       |
|----------|-------|
| 学識経験者    | 田中 敦  |
| 地域を代表する者 | 芝川 又和 |
| 地域を代表する者 | 進藤 幸夫 |
| 関係団体の代表者 | 望月 和彦 |
| 関係団体の代表者 | 佐野 極  |
| 関係団体の代表者 | 小林 明  |
| 関係団体の代表者 | 渡邊 正樹 |
| 関係団体の代表者 | 土屋 淳  |
| 関係団体の代表者 | 中山 宏樹 |
| 関係団体の代表者 | 大川 正勝 |
| 関係団体の代表者 | 林 新太郎 |
| 関係団体の代表者 | 山寺 法和 |
| 関係行政機関   | 渡邊 雅人 |
| 関係行政機関   | 前島 斉  |
| 関係行政機関   | 落合 直樹 |
| 関係行政機関   | 内藤 卓也 |
| 関係行政機関   | 清水 一也 |
| 関係行政機関   | 利根川 昇 |
| 教育機関     | 矢崎 茂男 |
| 教育機関     | 岡安 祐樹 |
- 市役所  
北杜市長 上村英司  
関係部局長
- 事務局  
政策秘書部長 宮川勇人  
政策推進課長 浅川豪  
政策推進課政策調整担当リーダー 篠原振一郎  
政策推進課政策調整担当 清水将

(5) 議題

- ・協議会の概要、今後のスケジュールについて
- ・その他

(6) 公開・非公開の別 公開

(7) 傍聴人の数 5名

(8) 議事の進行経過

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 委員紹介

4. 公開の可否の審議

(事務局)「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第4条に、公開非公開の決定は会議の開催前にあらかじめ、決定することが規定されている。ついでには、同要綱第3条に基づき、本日の会議は公開としてよろしいか。

(委員一同) 異議なし

(事務局) 異議なしとのことなので、公開とする。

5. 市長挨拶

(上村市長)

- ・八ヶ岳スケートセンターは、地域のスケート競技の拠点として、長く中心的な役割を担い、本市のスケート文化の形成と発展に大きく寄与してきた大切な施設である。
- ・本年3月に、八ヶ岳スケートセンターを市営施設として引き継いでいくことで、山梨県と基本協定を締結した。
- ・今後は県と連携しつつ、皆様のお知恵、お力添えをいただく中で、夏場の活用や周辺地域の活性化を通じた、地域全体の魅力向上をどのように図っていくべきか検討していきたい。

6. 会長、副会長の選任

(事務局) 協議会設置要綱第5条において、協議会に会長、副会長を置き、委員の互選によってこれを定めると規定されておりますが、方法についてはいかがするか。

(委員) 事務局一任、および株式会社スパティオ小淵沢代表取締役で、北杜市副市長の小林明氏を推進する提案。

(事務局) ご提案をいただきましたので、会長には小林委員に、副会長には、本日欠席ではありますが、八ヶ岳スケートセンターの敷地の地権者でもあります小淵沢財産区議長の遠山委員を薦めたいと思うがいかがか。

(委員) 異議なし。

(事務局) 異議なしとのお声をいただきましたので、会長に小林委員、副会長に遠山委員ということで、皆様の拍手を持って御承認いただきたい。

(委員) 拍手。

(事務局) それでは、小林会長より一言あいさつをお願いします。

7. 小林会長あいさつ

8. 議事

(事務局) 協議会設置要綱第6条に基づき、小林会長に議長となつていただく。  
小林会長に議事の進行をお願いする。

(議長) 会議録については、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第9条により会議の会議録を作成し、公表することとなっている。

また、会議録には会議で指名する者、2名以上の署名が必要であり、議事録署名委員を委員の方々から指名する。

「あいうえお」順で、大川正勝委員と岡安祐樹委員を指名する。

それでは、議事について事務局より説明を求める。

(事務局) (1) 協議会の概要及び今後の検討方針等について、別紙資料をもとに説明。

(議長) 事務局からの説明が終了したが、始めに、今後の日程とワーキンググループの開催についてご意見があれば伺いたい。

令和3年度に2回開催、令和4年度に2回開催し、来年度秋頃に構想をまとめる方針だが、いかがか。

(委員) 令和4年からスケートセンターを市が運営する中で、来年度の3回目、4回目は、管理運営委員会とはどのような連携をとるのか。

(事務局) 令和4年度から市へ移管となるため、スケートのシーズンは令和4年の秋からとなる。運営委員会ではスケートセンターの中心の活用、年間を通じた活用策を、今年度検討していくため、それを踏まえて周辺の活性化を検討していく。

(議長) 令和4年度にセンターの中心部分を活用する施設を作り、令和5年度からその部分を活用していく予定。リンクはその工事の状況にもよるが、できれば令和4年度から使えるようにしたい。この協議会では、あくまでも周辺地域の活性化を検討していただきたい。

(議長) また、スケジュールについては提案通りでよいか。

(委員) 異議なし

(議長) ワーキンググループの設置についても案のとおりでよいか。

(委員) 異議なし

(議長) それでは、事務局の説明について意見があれば伺う。

(委員) 活性化範囲は資料中の地図の範囲ということか。また、昆虫館があったと思うが、現状ではどうなっているのか

(事務局) おおむね地図の範囲で検討していく方針。

また、昆虫館は現在農業生産法人にてブドウ畑として令和5年度からの活用に向けて工事が進んでいる。

(委員) この協議会ではスケートセンター中心の活性化を含めて検討するわけではないのか。

(事務局) 運営協議会では、通年での活用策や経営を含めた活用を検討し、本協議会はいくまでの周辺地域の活性化ということで分けて開催する。

(委員) スケートリンク場内の活用策と、周辺地域の活用策をどのように連動させるのか。

(事務局) 場内の活用策を本協議会と共有しながら、周辺の活性化策を検討し

ていく。

(議長) スケートセンターの活性化策は管理運営委員会で別途検討しているが、本協議会は、それと必ずしもリンクさせるわけではない。

全部がセンターの活性化策に集約されるわけではなく、それに合わせて周辺地域をリンクさせて、中心の整備を起爆剤として周辺地域の活性化策を検討することが本協議会の目的。

(委員) 資料では観光に期待しているように見える。センター利用者で実際の観光客は何人だったか知りたい。

現状の施設では観光客の呼び込みは無理だと考える。寒さ対策などの整備が必要と考えるが、どうか

(事務局) センターの利用者数の内訳で、一般は 36%だが、そのうちの観光客数は手持ちがないため、改めて確認する。

また、施設の整備は管理運営委員会で扱っていることなので、委員会にて検討してもらうようにする。

(委員) 活性化エリアは市民の生活エリアでもある。住民に対してのケアも考えた上での活性化策としてほしいが、どのような考えか。

(事務局) 観光施設を連携させながら活性化をしていくが、前提として地元の方への配慮もした上で検討するよう留意していく。

(議長) 他に意見がないようなので、委員の皆様から一人ずつ、本協議会にあたっての感想や意見を頂戴したい。

#### 【各委員からの意見】

- ・小淵沢は「ただ行く」のではなく「過ごしてみたいエリア」として認識されており、素通りをして長野まで行ってしまふ人が多いのはもったいない。
- ・暮らすように旅行する、ワーケーションなどが広がり、新しい観光のスタイルとして急速に需要が高まっている。
- ・2年後くらいに「新しいスタイルが定着した観光地」として広まるように、シンボリックにスケートセンターを活用していけば良いと思う。
- ・「仕事もしつつ、楽しくも遊びたい」人が増えているが、場所が少ないため需要と結びつけるチャンス。
- ・小淵沢には自然はあるが、あまり魅力のないまちとして認識されている気がする。
- ・環境をしっかりと守ってもらった上で進めてもらいたい。
- ・インターから北側（八ヶ岳方面）は観光地化しているが、南側からすると活性化により水道などの整備が必要になるなどしわ寄せがくる。
- ・近隣住民の賛同がないと活性化は難しい。
- ・誰に対して何をするのか、コンセプトやターゲット設定が大切。
- ・次世代向けにサマーキャンプや SDGs を絡めて自然体験をするなど、二拠点居住や移住につなげることも考えられる。
- ・観光やスポーツに限らず考えていくことが重要。
- ・DX、SDGs も絡めて検討することも考えられる。
- ・北杜は県全体の 1/7 の入込客数がある。また、小淵沢は県全体 5% を占める。

- ・現在はおもてなしについての人材育成を行っている。
- ・スケートセンターには、地元出身の元オリンピック代表選手、長久保文雄さんの功績を紹介するブースを作ってほしい。また開所式にも呼んでほしい。
- ・中心はスケートボード施設としてはどうかと思う。
- ・地域と一緒に盛り上げ、外からお客さんを呼び込む仕掛けを考えていきたい。
- ・持続的な発展ができるかを考えるべき
- ・現在、小淵沢 IC 付近でブドウ畑の整備を進めているが、中央自動車道や小海線からも景観が良く見えるようにし、ワインでの PR をしていく。
- ・県はレバレッジのきいた投資を目指している。計画を作ってしっかりと投資していく。
- ・小淵沢は馬術競技場の改修の際もそうだったが、ポテンシャルが高く計画が作りやすい印象。
- ・スケートセンターは 1 億 4 千万以上をかけて改修する予定。地域スポーツコミッションを R4 に県で立ち上げる予定。スポーツという切り口で地域活性化を図っていく。
- ・二拠点居住を推進している。小淵沢は引き合いが多い一方で、物件が少なくなっており、需要に対して供給が必要となっている。地域に係ってくる負荷、負担との折り合いをどうつけるかが重要。
- ・夏場の観光客を増やすか、冬場を増やすか、それによりターゲット層は変わってくる。次回ターゲットを明確にするよう進め方を検討してほしい。
- ・スケートセンターの方針も情報共有を適宜してほしい。  
(事務局) 活性化をどういった観点で進めていくか、ワーキンググループでも検討していく。また、管理運営委員会の検討状況も資料等の提供も含め共有していく。
- ・小淵沢は「落ち着いた非日常」を感じられる印象である。
- ・何でも富裕層ではないが、満足感を得られる、非日常を感じられるそういった魅力を伸ばしていけば、少し高いお金を払っても人が来てくれる。
- ・高付加価値化を図っていくことは必要。
- ・フィオーレ跡地 (12Ha) を 2 つの農業法人にて、醸造ブドウや多品目の野菜の栽培開始を予定している
- ・馬術場では日本馬術競技の全国大会が行われている。馬のまち小淵沢を最初にもってきてもらいたい。
- ・富士見や原村にもスケートを広げていきたい。
- ・スケート人口の推移を知りたい。
- ・管理運営委員会の様子も知りたい。
- ・スキー人口も減っていていて苦しんでいる状況である。
- ・今までは小学校でのスケート教室では小瀬スポーツ公園を使っていたが、今後は八ヶ岳スケートセンターを活用するようにしていきたい。
- ・日本山岳会の会員をしている。北杜市全体が優れた山岳環境の都市であるため、北杜市の山の魅力を発信するために、子どもの登山教室をしたらど

うかと考えている。

- ・市内にはプロの登山家が 20 人ほど移住してきており、ご協力いただくことも考えられる。
- ・スケートセンターをどういった施設にしたいかが周辺地域にとっても重要なため、管理運営委員会との連携が必要。
- ・地域活性化のためには、P T Aとしては外部からの移住促進は欠かせない。
- ・地域そのものの発展のためには子育て世代の移住を促進させなければならない。
- ・20～30 代を呼び込んで移住に結び付けられるように、空き家等を利用したプチ移住などができるようにし、移住を体験し、ついでに観光というのが良いと思う。
- ・駅は地域の出入り口として非常に重要な機能を有している。緑の窓口が小淵沢駅からなくなったことに対し、見直しを要望する。

(議長) 最後に、ご意見があれば何うがどうか。

(委員) 意見なし。

(議長) すべての議事が終了したため、事務局に進行を移す。

(事務局)

- ・次回協議会は 2 月 1 日を予定している。また、ワーキンググループの日程等は別途関係者に連絡をする。
  - ・今回の協議会での意見は、後日のワーキンググループで参考にする。
- 以上で本協議会は終了とする。

## 9. 閉会

正午終了